

鹿児島市立美術館

市美だより 2021. 春号

常識にとらわれない自由で不思議な世界

アンドレ=ポーシャン (1873~1958)



《森に棲む動物達》1930年制作

※本作品は、所蔵品展で年間を通して見ることができます。

絵の中にある動物の姿を見つけられましたか？よく目を凝らすと、大きな岩に3匹のアナグマたちが隠れています。それにしても、何だか不思議な風景です。岩はまるで宙に浮かんでいるかのよう、森の向こうに並ぶ赤い屋根の家々は、遠くにあるはずなのに手前の景色よりも緻密に描かれています。

作者のポーシャンは園芸や測量の仕事をしていましたが、40歳を過ぎてから画家に転じました。生まれ育ったフランス中部の田園地帯を思わせる豊かな自然などを自己流の表現で描き、アンリ・ルソーらとともに素朴派と称されます。花木と身近に触れた経験は繊やかな植物の描写にも生かされています。美術学校での教育を受けなかったため正確な遠近法や陰影法を用いず、近景も遠景も同じ密度で描き込む彼の作品には、独特の味わいと面白さが生まれています。その自由な画風は、建築家のル・コルビュジェらにも注目されました。

小企画展 花・華・はな ～描かれた花々～

《2月16日(火)→3月28日(日)》

花は古くから様々な目的で描かれてきました。静物画のメインモチーフ、肖像画の名脇役、日本画における吉祥モチーフなど、さまざまな花の表現をテーマごとに紹介します。

季節を告げる可憐な花



橋口五葉 《五葉》 1904年

暮らしを彩る装飾の華



小松甲川 ぼたん図(左) 1892年

人物画・室内画の中のはな



藤島武二 桜狩(習作) 1893年頃

花々は、人物や室内を飾る名脇役としても描かれました。

当時の暮らしに密着した屏風(びょうぶ)に描かれた花です。

春の所蔵品展 3月9日(火)~5月30日(日)

ミニ特集 絵のなかの群像 ～ディスタンスを考える～

コロナ禍では、人と距離を取ることが求められています。それが日常となった今、我々は人々の密接な様子に違和感を覚えるようになってしまいました。現在の視点で絵の中の群像を見つめ直してみましょう。



南日本新聞 オセモコ コーナー連載

新春から毎月第4火曜日(第1回目は1月26日)にオセモコ内で『かごしまアートさんぽ』のコーナー連載が始まりました。子ども向けに美術館の作品をやさしく解説します。



春の特別企画展

魂の旅 遠藤彰子展

～巨大画に広がる一大叙事詩～

3月26日(金)→5月5日(水祝)

大きさ1000号(約3.3m×4.5m)以上の超大作！
巨大画に広がる世界を一緒に楽しみませんか

大型バス 駐車場のご案内

美術館とメルヘン館の共用駐車場

は、事前予約により、大型バス3台(マイクロバス7台)駐車可能です。遠足や修学旅行等で来館の際は、事前予約のうえご利用ください。



2月21日、3月21日、4月18日、5月16日です！

5月5日こどもの日も小中学生は無料だよ！

